



『農業に関する作文・図画 コンクール』作品発表

農業委員会では、子供たちが農業をどのように見ていくのか、感じているのかを知るために、また子どもたちに農業に興味を持ってもらうことなどを目的として小学生を対象に「農業に関する作文・図画コンクール」を開催しました。

今年で3回目になります

作文の部・最優秀賞

「太陽のごちそう」

木島小学校6年

稲生

美咲都 さん

朝一番に起きるのが、おばあちゃんです。一番に起きたおばあちゃんは畑に行き、畑で仕事を帰ってきます。それから朝ご飯です。朝一番に採れた野菜が

今はおかずです。トマト、なす、きゅうりなどの野菜があり色がどりがとてもきれいです。お母さんは、「毎日なすやきゅうりばかりで何を作ればいいんだろう。」と言っています。お

おばあちゃんの野菜は、あまり形がよくないので、おばあちゃんの作るトマトが大好きです。私はいつも、おばあちゃんの作ったトマトをまるかじりします。とても甘

「あつ、あつ。」あせびつしよりになっておばあちゃんが、野さいのせわをしていた。ぼくたちも学校の畑でキュウリを作っている。春に、「ケイフン、畑にはこんで。」と言われ

て、一リン車ではこんだ、くさかった、へんなにおいがしたから、「もうやだ。何まくの。」と聞いたら、「もうこしや、えだまめをまくんだよ。」と言ったので、がまんしてはこんだら手がいたくなつた。お

おばあちゃんが、「今年はよくなるぞ。」と言った。「どうして。」と聞いたら、「れんが、たくさんはこんで、いっぱい入ったからさ。」と言われた。夏になつたら大きいもろこしがとれるかと思つて、早く大きくなつてほしいと思つた。六月に入つてから、ホタルにた、がい虫がいた。この虫がつくと、葉を食べられるのでこまる。しようどくは何を使ったらいいかかわらない。「つぶすかしよががない。」と言つて、おばあちゃんがつぶした。昔はこんな

虫いなかつたけれど、ひりようを買つて来るようになったら、この虫が出て来たらしい。今は何でも買つて来るが、昔は家で、ワラや草をつんでくさらせて、たいひを作つて畑に入れたそうす。その方が土にいいとおばあちゃんは、教えてくれた。春、一リン車でお手つだいした、へんなにおいがいやだつたことを思い出した。でも、家の畑でとれたもろこしは、おいしくて大すぎです。

「温井わけしよ会スイカ作り」

戸狩小学校6年

北條

裕聖 くん

ぼくの父は温井わけしよ会に入っています。温井わけしよ会は今年でけつせい7年目です。できたわけは温井に若い人が少なくなつて地域の活性化のためにできました。そのため温井特産のスイカを広めて活性化になるからスイカ祭りを始めました。もう今年で六年目です。スイカは、まず四

月末から五月中旬にかけてスイカの苗を植える準備をします。主にたい肥をまいたり、畑を起こしたり肥料を入れたりマルチをひいてスイカの苗を植える準備をします。そして、スイカの苗を五月中旬に植えます。六月から八月の上旬まで消毒やつるひき、動物よけなどの作業をします。今年

図画の部・最優秀賞



「赤ぼう隊の田植えだ」
飯山小学校5年 葛綿 稜弥 くん

優秀賞 2点



「田植えだがんばろう！」
飯山小学校5年 横山 未来 さん

お詫び
9月号の農業委員の紹介で、田中謙一朗さんの行政区が「北畑」となっており、訂正致します。

図画の部・優良賞

作文の部・優良賞



「田植」
飯山小学校5年 田中 真奈美 さん

ぼくは、「スイカがあんなにまがかかるなんて知りませんでした。やつぱり苦労してるからあんなに甘いスイカができるんだな。」と思いまし

た。わけしよ会は24才から38才までの人が入っています。でもみんなそれぞれに仕事をしていて休日や早朝や夕方などに作業をしているのでとてもすごいと思います。父はこれからもつとつと温井のスイカをたくさんの人に知ってもらふこと、そして地域おこしをすることによって若い人がもつと地域に残つてもらえるような活動をしたと言っています。ぼくも温井に残つていたわけしよ会に入つてスイカ作りをやつてみたいと思います。